

## 「古椿姫 紹介文」

岡和田晃

『エクリップス・フェイズ』日本語版翻訳チームのメンバー、待兼音二郎の小説をお送りしたい。

ちょうど、今月の『Eclipse Phase』情報』に紹介のあるシナリオ「スペース閨金道——情報難民をさいなむドラッグ」の作者でもある。

SF Prologue Waveの読者のなかには、『ウォーハンマーRPG』の翻訳を手がけ、紹介文を寄稿したことを記憶されている向きもあるだろう。

あるいは、いまだルールブックが翻訳されていなかった時期に、ファンジン『Eclipse Phase Introduction Book for 2011 Japanese』に翻訳「特異点への突入」を寄せていたことを、ご存知の方もいるかもしれない。いまは『SF Prologue Wave』に採録されている。

待兼は、翻訳者として長きにわたるキャリアを誇るのみならず、ライターとしても多彩な活躍を見せている。

その小説「古椿姫」は、明治や近世の擬古文に通じた待兼音二郎の資質が遺憾なく発揮されているが、それだけではない。

あのケン・リュウが書いた『エクリプス・フェイズ』小説「しろたえの袖（スリーブ）――  
拝啓、紀貫之どの」を訳した経験が、明らかに投影されている。

また、「TH（トーキング・ヘッズ叢書）」No. 73に掲載された批評「物言わぬ樹木にもしも人魂が宿ったら——植物変身譚の考察」は、本作の「理論編」と言えるかもしれない。